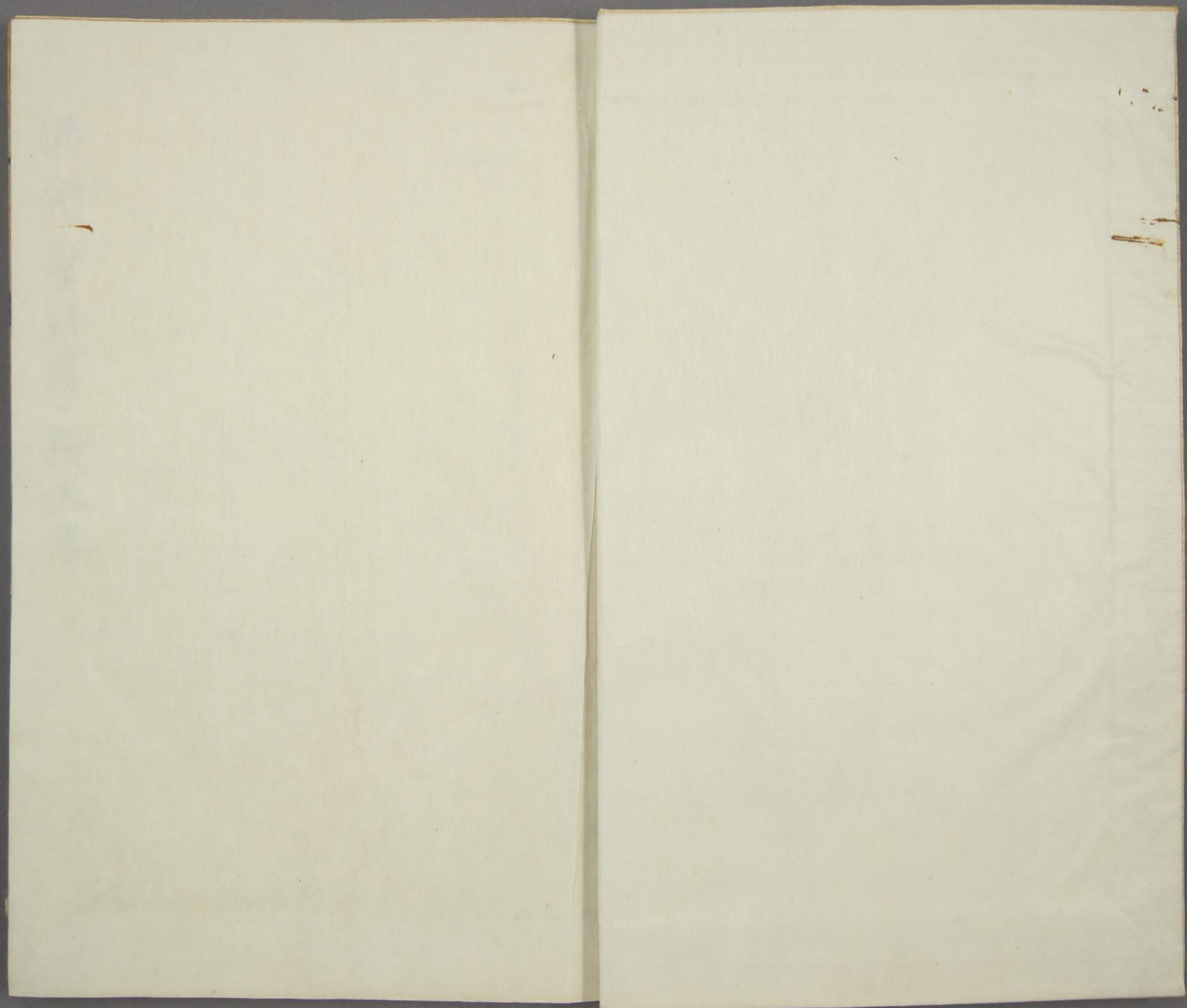




保命會社事務大畧









保命會社事務大畧

二



114  
A3616

會社事務大畧

會社組立方ノ事



大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

會社ノ組立方ニハ通例三通アリ他ノ商社ノ  
 如ク株式ヲ賣リ財本ヲ募集シテ之ヲ非常ノ用  
 ニ備ヘ得益ハ盡ク株主ニノミ配取スルヲ財主  
 分有會社トイヒ財本ヲ募集スルノ前ノ如クシ  
 之ヲ非常ノ抵當トシ得益ハ之ヲ財主ト寄托者  
 命即チ會社ト金ト捐スル者トニ分ツヲ主客分擔會  
 社トイヒ財主ヲ募ラス財本ヲ抵當トセス寄托  
 者互ニ捐スル所ノ金ヲ以テ相持シ利アレハ之



ヲ分テ損アレハ之ヲ負フヲ<sup>ミ</sup>互相共持<sup>キ</sup>會社トイ  
フ此三通ノ組立方ニハ各得失アリ財主分有會  
社ハ最モ確實ナレトモ夥多ノ財本ヲ要スルト  
ナレハ一朝ニ之ヲ募集スル能ハス且此類ノ社  
ニテ要スル所ノ寄托金ハ通例貴キ故ニ寄托  
者自ラ多カラス互相共持會社ノ如キハ互ニ捐  
スル所ノ寄托金ハ少シト雖モ其金ハ唯社員カ  
已レ一人ノ保命ヲ托スルノミニ非ス他人ノ命  
ヲモ幾分カ之ヲ用テ保セサル可ラサルカ故ニ  
一旦不時ノ事アレハ損失モ亦隨テ大ナリ且得

益ノ分配ニ至テモ常ニ先入ノ者ト後進ノ者ト  
爭ヲ生シ易ク已ニ英國ノ某々ノ會社ニテハ社  
員ノ此爭論甚タ葛藤シ終ニハ公裁ヲ仰カサル  
ヲ得サルヘシト聞ケリ殊ニ我俗ノ如キ斯ク多  
人相持シテ社ヲ結フハ種々枝葉ノ難件ヲ生シ  
迎モ永續ハ成リ難カルベシ唯主客分擔會社ノ  
如キハ財主アリテ幾分カ寄托者ニ對シテ請合  
ニ立テ寄托者モ寄托金ノ少分ヲ以テ互ニ請合  
ニ立ツ取極メナレハ不慮ノ事アルモ負擔スル  
所ハ大ナラス且年ヲ定メテ幾分カ得益金ノ分



配ニ與ル者ナレハ前ノ二類ヨリハ良全ノ方法  
ニテ我邦俗ノ情好ニ最モ適當ス因テ愚輩會社  
モ此組立方ヲ用フ

保命寄托金割合ノ事

凡ソ事物ノ數ハ豫メ之ヲ計ルト甚タ難キニ似  
タレトモ造化ノ定ムル所素ト自ラ其度アルヲ  
以テ之ヲ驗スル久ヲ積メハ能ク之ヲ計ルヲ得  
可シ夫ノ日月星辰ノ如キ我ヨリ隔ル極メテ遠  
シト雖モ豫メ其晷蝕ヲ量ル今日ニ在テハ亦易  
々ノ事タリ而メ人世ノ事ニ於テ其起ルヲ知ル

如キハ極メテ難シト雖モ歲月ニ其度ヲ記シ多  
年之ヲ集メ統計シテ以テ其均數ヲ得レハ則云  
々ノ事ハ何年間ニ何回起ルトイフヲ知ルベキ  
ナリ譬ヘハ郵便書信ニ届先キノ地名番號ヲ記  
サバル如キ紛冗忽卒ノ際或ハ不掛意ヨリ起ル  
トニテ固ヨリ何回之アルヘキヤ知リ難キ理ナ  
レトモ年々没書函中ニ投セラル、信書ノ數ヲ  
記シ數年ノ後其均數ヲ見レハ一年中大抵何回  
ニ及フトヲ知ルベキカ如シ人命ノ數モ亦然リ  
特ニ一人ヲ取テ何年間生存スヘキヤ豫メ之ヲ



知ル<sup>レ</sup>難シト雖モ一國一縣或ハ一府一地方ノ  
人民カ死亡ノ數ハ多年歴驗ノ上ニテ之ヲ知ル  
ヘシ又其死亡ノ總數ハ男衆人女衆人何歳ノ者  
衆人ト毎歳其統計表ヲ作リテ之ヲ驗ミレハ亦  
能ク其均數ヲ知ルヲ得ヘシ是保命算理ノ原ク  
所ナリ故ニ譬ハ茲ニ年齡二十五ノ壯年ニ及ヘ  
ル者一萬人アリ此一萬人カ初メノ十年間ニ千  
二百人死シ次ノ十年間ニ千五百人死シ又次ノ  
十年間ニ千七百人死スルトシテ見ルトキハ此  
一萬人ノ中ニテ二十五歳ノ者ハ平均六十二歳

マテ生存スヘク三十五歳ノ者ハ六十五歳マテ  
四十五歳ノ者ハ六十八歳マテ五十五歳ノ者ハ  
七十一歳マテ生存スヘシサレハ此人員平均生  
時ヨリ三十三年ヲ其死期トス扱今一千人ノ健  
康ナル者ヲ取リテ右ノ算法ニ從テ計ルニ二十  
五歳ノ者ハ猶平均大約三十七年半ノ間生存ス  
ヘク三十歳ノ者ハ三十四年半ノ間三十五歳ノ  
者ハ三十一年ノ間生存スル割合トナルナリ扱  
又此ニ出セル例ハ假ニ設ケタルモノナレト此  
算法ヲ詳ニセンニハ命數表トテ幾萬人ト同年



ニ生レタル兒子ノ毎年死シタル數ト生存セル者ノ數トヲ大抵百年間試ミタルヲ集メタル表アリ之ニ照合セテ何歳ノ者カ其死ニ方ツテ何万何千或ハ何百圓ノ保命金ヲ受ケン一ヲ會社ニ寄托スレハ其者ハ大抵何年間生存スヘシト會社ニテ豫算ヲ立テ寄托人ヨリ年々或ハ一時ニ會社ヘ納ムヘキ金高ヲ定ムル一ナラザレハ此表ハ保命會社ニ取リテハ最モ大切ナルハ勿論國家ノ經濟ニ於テモ誠ニ必用ナル者ナレトモ何國ノ政府ニテモ是等ノ事ニハ意ヲ用ヒサ

ル者ト見ヘ從來何國ノ會社ニテモ政府ニテ作リタル其國一般乃至各地方人民ノ一定セル命數表ヲ用フル一ナク學者或ハ算命者幾何學者等カ私ニカヲ盡シテ作リタル命數表ヲ用フル一ナリ元來此表ハ全國ノ人民ヲ男女長幼ヲ分ケテ其死者ノ數ヲ見又各縣各府ニ分ケテ之ヲ驗ミ尚且各民カ産業ニ從テ之ヲ分ケ其命數ノ長短ヲ多年歴驗スルニ非レハ精密ノ數ヲ得ヘカラス而シテ之ヲ為スハ政府ノ力ニ非レハ固ヨリ行ハレサル一ナレトモ何レノ政府ニテモ此



ニカヲ用ヒタルト曾テ之ナシ唯瑞典國ノミ全  
國人民ノ命數表アレトモ其割合大ニ他國ノ者  
ト異ナレハ之ヲ用フル者希ナリ又英國ニテハ  
政府ノ養老金券ヲ賣ランカ為ニ命數表ヲ作リ  
タルトアレトモ是モ亦其券ヲ買フ者ノミヲ命  
數ニ限リタルノミナラス健康ノ者ノミヲ擇ン  
テ之ヲ賣リタルヲ以テ他表ニ比スレバ死者ノ  
數甚タ少キカ故ニ是亦用フ可ラス是ヲ以テ英  
米兩國ノ會社共ニ其眞命ノ表準トシテ用フル  
所ノ表一定ナラス米國ニテハ近頃古諸表ニ比

シテ別ニ其諸會社カ經驗スル所ヲ大成シテ米  
國經驗命表<sup>數</sup>ヲ作ルリ是ハ大約中正ヲ得ル者ナ  
レトモ是スラ會社ノ手ニ及フ程ヲ集メタル者  
故恐クハ完全ナリト謂フ可ラス 皇邦ニ於テ  
モ古ヨリ此事ヲ詳ニセル表ナシ今政表課ニテ  
編集セラル、所ハ一般ノ目的ニ於テハ十全ナ  
リトイフベシト雖モ保命ノ表準ト為スニハ纔  
ニ其一分ヲ達スルニ過キス故ニ愚カ輩カ幸ニ  
官許ヲ得テ會社ヲ立ルニ得ハ則チ右米英諸  
國ノ表ヲ折衷シテ姑ク之ヲ用ヒ十年ヲ期シテ



第一 第一

尋常保命表

イフーラ證スル  
命金ヲ渡スヘシト  
スル時ハ相當保  
書ヲ出シ其後死  
ニ三年拂濟ノ證  
出セハ會社ニテ別  
ル保命證書ヲ差  
出シハ前ニ度シタ  
者ニハ前ニ度シタ  
ルヲ納メタル後納  
メタルニテ三年間  
異アリト自ラ差  
出シタル者ニテ三  
ト半年乃至三月  
年分ラ一回ニ納ム  
ルヲ示セタル者ニ  
合テ會社ヨリ要ス  
ル金ヲ与フル約束  
セシ時壹千圓保  
此表ハ寄托人宛

年齢	一歳ノ掛金	半歳ノ掛金	四季ノ掛金
二五	九、八九	〇、三五	五、二八
三〇	二二、七〇	〇、八〇	六、〇一
三五	二六、三八	〇、七貳	六、九九
四〇	三一、三〇	〇、二八	八、二九
四五	三七、九七	〇、七五	〇、〇六
五〇	四七、一八	二四、五四	二、五〇
五五	五九、九一	三〇、〇六	五、八八
六〇	七七、六三	四〇、三七	二〇、五七
六五	一〇、五五	五三、三三	二七、一八

適當ノ命數表ヲ作ラントス是ヲ以テ保命寄托  
 金并ニ養老寄托金等ノ割合モ亦右ノ折衷ノ數  
 ニ據ラントス尤モ之ヲ作ルハ易々ノ事ニ非ス  
 且頗ル多數ヲ要スルヲ以テ許可ヲ得ルノ後最  
 モ莫數ニ明ナル者ヲ擇ンテ之ニ從事セシメ表  
 成レハ官ノ令スル所ニ從テ一部或ハ二部ヲ談  
 係ノ官署ニ奉ラントス因テ今此ニ之ヲ畧シ下  
 ニ米國某會社ニ於テ用フル所ノ保命并ニ養老  
 寄托金表ノ要畧ヲ抄出シ以テ其大要ヲ明カス



第 三

十年皆納寄托金表

ルナリ  
フヘシトイフ證書ヲ与フ  
千円ノ五分一ヲ死時ニ与  
ラ納ムル能ハサル者ニハ  
中贖ヘハ二年ニテ寄托金  
ニ還セハ約束ノ保命金ノ  
出テ前ノ保命證書ヲ會社  
リ三ヶ月ノ間ニ其由ヲ申  
ルトキ其年納金ノ期限ヨ  
金ヲ為シテ其後納ムル能ハ  
ルナリ且寄托者ニ年納  
束ノ金高ハ會社ヨリ与フ  
期內ニ其人死スルトモ約  
ニ多クアリ何レモ約束  
合ナリ是亦年納ト納時ト  
社ヘ納メテ皆済ニナル到  
年ノ間ニ年々寄托金ヲ會  
社千圓ヲ与フル約束ニ十  
此表モ亦寄托者カ死セシキ

年齢	1歳ノ掛金	半歳ノ掛金	四季ノ掛金
二五	四二、五六	二二、一三	壹壹、二八
三〇	四六、九七	二四、四三	壹二、四五
三五	五二、四〇	二七、二五	壹三、八九
四〇	五九、〇九	三〇、七三	壹五、六六
四五	六七、三七	三五、〇四	壹七、八六
五〇	七七、七七	四〇、四四	二〇、六一
五五	九〇、七九	四七、二一	二四、〇六
六〇	壹〇七、三五	五五、八二	二八、四五
六五	壹二九、壹八	六七、一九	三四、二四

印ハ四位ナリ

第 三

老 金 表

一ツ与フキナリ約束スレバ  
ハハ三年半ナレハ十分  
社ニ納メタル金高啓  
三十五年後ニハ其會  
ニテハ別ニ證書ヲ出シ  
書ヲ會社ニ還セハ會社  
由ヲ申出テ前ノ保證  
ノ未ル後三ヶ月ノ中ニ其  
四年ノ寄托金納期限  
金スル能ハサル者ハ第  
捐金ヲ為シテ其後捐  
ナリ又寄托者三年間  
高ヲ其名代人ニ渡ス  
レハ矢張其約束ノ金  
ニ満期前ニ本人死ス  
三割合ヲ示セル者ナリ尤  
リ要スル所ノ寄托金  
フヘキ約束ニテ會社ヨ  
ニ壹千圓ノ養老金ヲ与  
是ハ三十年ノ後寄托者

年齢	1歳ノ掛金	半歳ノ掛金	四季ノ掛金
二五	二六、三三	壹三、六九	六、九八
三〇	二七、七六	壹四、四四	七、三六
三五	三〇、〇〇	壹五、六〇	七、九五
四〇	三三、五五	壹七、四五	八、八九



第四  
三十年期養老金表

表同シ  
此表ノ誤ハ前第三

年齢	一歳ノ掛金	半歳ノ掛金	四季ノ掛金
二五	三〇、六一	壹五、九一	八、壹壹
三〇	三壹、七八	壹六、五三	八、四二
三五	三三、六三	壹七、四九	八、九一
四〇	三六、五九	壹九、〇三	九、七〇
四五	四壹、三七	二壹、五壹	壹〇、九四

印ハ圓ノ位ナリ

右ノ次第ナレハ會社ニテハ保命ヲ寄托スル者  
 アレハ先ツ其人ノ死シタル時何程ノ金高ヲ受  
 ケンイヲ欲スルヤヲ問ヒ次ニ其人ノ年齢ヲ問  
 ヒ検査醫ニ其人ノ身體ノ強弱ヲ診査セシメ然  
 後右ノ表ニモ照シ大凡其人ハ何年生存スベキ  
 ヤヲ豫定シ斯クテ其人カ年々會社ニ納ムヘキ  
 捐金即寄托金ヲ積ルナリ之ヲ保命費金トイ  
 フ此費金ノミニテハ固ヨリ會社ノ入費ニモ  
 引足ラサル故別ニ會社ノ費用何割資本金ニ抵  
 當即チ官奉ル者ノ利子其外非常入用等ノ備ヘ何



割トヲ割掛ケテ始メテ年々ノ寄托金ヲ定ムル  
トニテ此割掛ケタル分ヲ寄托割合金トイフ合  
シテ寄托金トナルナリ則チ右ニ舉ル所ノ表ノ  
割合ハ此ニタ通りヲ合シタル者ナリ尤右表ノ  
割合ハ通列健康ナル人ニ課スル割合ヲ増サ、ル  
托者ノ強弱ニ隨テ保命費金ノ割合ヲ増サ、ル  
ヲ得ス

扱又右ノ譯ナレハ會社ノ積リヨリ早死スル者  
ハ寄托金ノ高未タ満タサルニ保命金ヲ受取ル  
ニ由テ其人ヨリ長命セル者カ各其寄托金ノ中  
ヨリ幾分カ其人ノ為ニ割前ヲ出サネハナラ  
次第ナレトモ已カ死スル時モ天張已レヨリ長  
命スル者ノ割前ヲ受クルト故誠ニ相互ニ助  
合フ公平至當ノ道理ニテ人間社會ヲ組立ツル  
天意ニモ叶フトイフベシ尤モ此割前ハ死者  
アルトキニ別段出スニハ非ス右ニ載セタル寄  
托金表ノ割合丈ヲ年々差出ストキハ天ニテ濟  
ムトナリ斯クテ年々寄托者ノ中ヨリ何程死ス  
ヘキトイフヲ會社ニテ積リ置キタルヨリ死  
者ノ數寡ケレハ右割前ノ何分カ長命セル者ノ



得分トナリテ其手ニ還ルナリ其上若シ會社  
 ノ豫算ヨリ長命スル者ハ其積リタル期限後ハ  
 最早年々ノ寄托金ヲ出スニ及ハヌ定メナリカ  
 レハ是亦正當ノ道理ニ違フタルナリハ少シモ是  
 ナク實ニ社會ノ為ニ利息トナル良法ナリ  
 右ノ如キ良法ナルカ上ニ寄托者ヨリノ掛金ハ  
 誠ニ些少ニテ足ルナレハ縱令保命金一千圓  
 ヲ受ケンナリト托スル者ニテモ上ノ第一表ノ割  
 合ニテ見レハ其一週間貯蓄スヘキ割合ハ左表  
 ノ如シ貯蓄ノ餘財ヲ托スルニ此ノ如キ良法ナ

シ尤モ我邦ニテハ命數表ヲ新ニ作ラザルヲ得  
 ガルカ故ニ右諸表トハ多少割合ノ差異ヲ生ス  
 ベシ

第五

年 齡	壹歲寄托金	每週積金
二十五	一九、八九	三八錢
三十	二二、七〇	四三錢
三十五	二六、三八	五〇錢
四十	三一、三〇	六〇錢
四十五	三七、九七	七三錢

、印ヲ圓ノ位トス



寄托者ニ配分スル得益金ノ事

會社ヨリ寄托者ニ配分スル所ノ金ハ通例之ヲ  
得益金ト稱スレトモ是ハ銀行或ハ他ノ商社ノ  
如ク商業<sup>ニ</sup>ノ利益ヲ配分スルニハ非ス會社ニ  
テ托ヲ受ケ保擔セル義務ヲ盡シタル後ニ遺レ  
ル殘金ヲ還ス<sup>ニ</sup>テ其實ハ之ヲ割戻シ金ト名  
クルヲ至當トス但シ是ハ<sup>ニ</sup>互相共持會社ヨリ出  
タル語ナルヘシ其故ハ財主<sup>ノ</sup>分有會社ニテハ固  
ヨリ寄托者ヘノ配分金ナク又主客分擔會社ニ  
テモ非常ノ準備ノ為ニ財主ノ財本ヲ抵當トス

ル<sup>ニ</sup>ナルヲ以テ始ヨリ寄托者ノ方ニテ得益金  
ヲ求ム<sup>ル</sup>キノ理ナク其之カ分配ニ與ル所以ハ  
唯己カ方ニテモ幾分カ不時ノ損失ヲ負ハ子ハ  
ナラヌニ由テ其損失少クシテ殘金ノ出來タル  
トキ割戻シヲ受クヘキヲ以テナリ獨リ互相共  
持會社ハ始メヨリ寐カシ置ク所ノ資本ヲ用ヒ  
ス損失アレハ一同ニ之ヲ分擔スル<sup>ニ</sup>故寄托金  
積テ餘リアレハ之ヲ融通倍息シテ其得益ヲ分  
配スルヲ以テ此語ヲ用フルモ不當トスヘカラ  
スヤレトモ元來保命ヲ托スル者ハ後來ニ備フ



ル為ニテ一時ノ<sup>利</sup>利ヲ欲スヘキニ非ヌ然ルニ  
毎年ノ得益大ナリトイフニ事サレテ動モスレ  
ハ甚タ疑フヘキ會社ニ大切ノ後事ヲ寄托シ從  
來忍耐節省シテ捐スル所ノ金錢ヲ失フノミナ  
ラス其寡婦孤子ヲシテ依頼スル所ヲ失ハシム  
ルハ誠ニ歎スヘキ事ナリ而メ是等ノ例ハ歐米  
諸國ニ往々アル所ナリ因テ愚等カ設立セン  
ヲ企ル會社ニテハ務メテ無用ノ費ヲ省キ資本  
并ニ寄托金等モ亦決シテ之ヲ機ニ<sup>扱</sup>扱シ利ヲ射  
ル等ノ事ニ用ヒス公債證書地券其他最モ信任

スヘキ銀行株式等ヲ抵當トシ稱貸殖息シ其得  
ル所ハ先ツ株主ニ其十分ノ七ヲ配與シ其三ハ  
<sup>其</sup>其捐スル所ノ寄托金額ト年數トニ割合シテ之  
ヲ寄托者ニ配分セントス因テ先ツ寄托金ノ何  
者タルヲ明ニシ次ニ割戻シ金ノ出處ヲ條列ス  
ル左ノ如シ  
前ニモ掲ケタル如ク寄托金ハ保命費金ト寄托  
割合金トヲ合セタル者ニテ其保命費金ノ事ハ  
已ニ述ル所ヲ以テ盡セルカ故ニ寄托割合金ノ  
事ノミ尚少ク詳ニスヘシ



寄托割合金ハ通例二種ヨリ成ル其一ヲ寄托準  
備金トテ寄托金ノ中ヨリ毎年末ニ翌年寄托者  
カ死スヘキ負數ヲ豫メ測リテ其需ニ充ツルカ  
為ニ會社ノ手ニ備ヘ置クヘキ金額ヲイヒ第二  
ヲ增加費金トテ會社ノ經費ニ充テ且流行病等  
非常ノ事アルニ方ツテ其費ニ給シ且始メ會社  
カ寄托金ヲ定ムル時年々子母殖息ノ法ヲ以テ  
之ヲ積リタル利子ヨリ會社ニテ貸附タル利子  
ノ方却テ少ク手ニ入ル時其不足ヲ補フ為ニ割  
撤ル金額ヲイフ斯クテ此等ノ計算ヲ立テ保命

費金ト合シテ寄托金何程ト定メ寄托者ヨリ受  
取ルニ由テ其寄托者ヘノ割戻シ金モ亦左ノ三  
通ヨリ出来ルナリ

第一増加費金即チ會社ノ經費及流行病等ノ豫  
備ノ餘リタル者

第二過餘ノ利子即チ寄托金ヲ貸スル時計リタ  
ルヨリ會社ニテ稱貸セル利子却テ多ク手ニ  
入リタル者

第三寄托者カ死數會社カ豫算ノ割合ヨリ少キ  
ニ由テ要セザリシ寄托金ノ残リタル者



右ノ次第ナレハ寄托者ヘノ割戻シ金ハ信任ス  
ヘキ會社ニテハ五年乃至十年ノ後ニ始テ其割  
合ヲ定メ是マテ積ル所ヲ一回ニ割戻ストモ或  
ハ其年ヨリ寄托金ヲ減スルトモ乃至ハ保命金  
ノ高ヲ増ストモスルナリ愚等カ會社ニテモ  
三年ヲ期シテ一即四年ノ第之ヲ分テ其開業ヨリ  
二年目ニ新ニ入リテ寄托スル者ハ何レモ寄托  
ノ日ヨリ三年ヲ待テ之ヲ分タレントス三年目四  
年目ニ入ル者モ亦同例ナリ

保命會社中存保立續スル所以ノ理

保命會社ハ右ニ述ヘタル如ク人間社會ノ為ニ  
大利益アル者ナルニ如何シテ保續存立スルヤ  
ノ疑アルハ自然ノ道理ナレハ今茲ニ之ヲ述フ  
ヘシ  
サレハ此會社ハ猶火災請合海上請合會社等カ  
一軒ノ家一隻ノ船ノ請合ヲ為スナリハ迎モ出来  
サル如ク一入ノ請合ヲ為スナリハ難ケレトモ多  
數ノ人莫ク請合ニ立ツ故其中ニテ死スル者ア  
ルトモ約束セル程ノ保命金ヲ死者ノ親族ニ與  
フルヲ得ルナリ譬ヘハ三十歳ノ年庚ノ者一



千人ニテ各一千圓ノ保命ヲ託スルトキ一人ニ  
付キ毎年會社ニ納ムヘキ寄託金二十三圓六十  
錢ト見レハ合計二萬三千六百圓ナリ扱此一千  
人ノ中初年ニ八人死スル者ト定ムルトキハ其  
年ハ八千圓ヲ寄託者ニ與フルトモ右二萬三千  
六百圓ニ一年四分ノ利子ヲ加ヘタル高一萬六  
千五百四十四圓ハ會社ノ手ニ殘ルナリ此殘金  
ニ翌年又同シ割合ノ利子ヲ得又生存セル寄託  
人ハ九百九十二人ニテ前年ノ如ク捐金ヲ為シ  
其中死スル者八人アレハ前年ノ如ク八千圓

ヲ受ケ第三年ニハ生存スル者九百八十四人ア  
リ又前ノ通り相替ラス捐金ヲスレハ前年ノ分  
并ニ利子トモ合セテ二萬三千二百二十二圓ハ  
會社ノ手ニ在ルヘシ斯クテ其年死者ノ數前年  
ヨリ一人増シテ九人アルトキハ右金高ヨリ九  
千圓ヲ拂ヒ此ノ如ク第四第五年ト漸々ニ生存  
セル者ハ捐金ヲシ死スル者ハ保命金ヲ受取り  
大抵六十五年ニシテ一千人ノ者皆死盡スニ至  
ルマテ其會社ヨリ與フル所ノ保命金ハ一百万  
圓ニ及フヘシサレハ此人負ノミニテモ六十五



年ハ保續スルナリ尤モ是ハ費用ヲ算入セズ詔  
ナレトモ右ノ年間ニハ毎年何人モ寄托者新ニ  
増加スル故株主等モ亦十分ノ得益ヲ得テ會社  
ハ保續スルナリ



